

VMware Workspace ONE

コンシューマー製品のようなシンプルさと、
エンタープライズレベルのセキュリティ

概要

VMware Workspace ONE® は、インテリジェンスペースのデジタルワークスペースプラットフォームです。アクセスコントロール、アプリケーション管理、マルチプラットフォームに対応するエンドポイント管理を統合することで、デバイスを問わずにあらゆるアプリケーションをシンプルかつセキュアに提供、管理できます。クラウドベースのサービスの場合は年単位のサブスクリプションとして、オンプレミスの場合は無期限ライセンスでご利用いただけます。

Workspace ONE は、共通の ID 管理フレームワーク上で、Unified Endpoint Management™ テクノロジー（統合エンドポイント管理、旧 VMware AirWatch®）とアプリケーションの仮想化機能（VMware Horizon®）を連携させます。Workspace ONE を活用することで、サイロ化したクラウド環境やモバイル環境を進化させ、プラットフォームベースのアプローチにより、企業内の全ユーザー、デバイス、モノにまつわるデジタル トランスフォーメーションを推進することができます。

主なメリット

Workspace ONE は、これまでコストと時間がかかり、大量のリソースを必要としていたプロセスやタスクを大幅に改善します。主なメリットは次のとおりです。

- 1 時間以内に新しいユーザーにアプリケーションやデバイスを提供可能。チケットの発行やヘルプデスクへの問い合わせは不要
- すべてのアプリケーション、デバイス、場所などの条件を関連付けたアクセスポリシーやデータポリシーを 1 か所で設定して適用
- コンシューマー製品と同様の使用感で、モバイルデバイスから業務を遂行可能
- クラウドからわずか数分で、世界中のあらゆる場所に新しい企業用ラップトップをプロビジョニング可能
- デジタルワークスペース環境全体にわたるインサイトの収集と各種機能の自動化

あらゆる
アプリケーション



アプリと ID 管理



デスクトップ | モバイル



管理とセキュリティ

あらゆるデバイス



Google

Microsoft

主な市場動向

最新のアプリケーション（SaaS アプリケーション、モバイル アプリ）の急速な導入と、安価に購入できる強力なモバイル デバイスの急増により、業務環境に新たな課題が発生しています。依然として多くの IT リソースを必要とするレガシー / ネイティブ アプリケーションや Web アプリケーションを含む既存の製品群への対応に加えて、従来の企業ネットワークの外部にある最新アプリケーションのサポートやアップデートが必要です。さらに、モバイル アプリの増加により、ユーザーの使用環境、セキュリティ対策、サポート要件の一貫性が損なわれており、コストを抑制するためにこれらの問題にも対処する必要があります。ユーザーは、時間や場所を問わず作業できる環境を求めており、柔軟性の低い従来のポリシーに準拠しない場合があります。企業は重大な転換期を迎えており、意図しないセキュリティ違反が発生する恐れのある状況を見逃すのではなく、新たな管理フレームワークを活用して新しい働き方に対応する必要があります。

Workspace ONE について

Workspace ONE は、インテリジェンスペースのデジタルワークスペースプラットフォームです。アクセスコントロール、アプリケーション管理、マルチプラットフォームに対応するエンドポイント管理を統合することで、デバイスを問わずにあらゆるアプリケーションをシンプルかつセキュアに提供、管理できます。コンシューマー製品のようなシンプルさで、1 つの統合カタログからクラウド、モバイル、Web、Windows の各アプリケーションにシングルサインオンでアクセスできるほか、業務用の E メール、カレンダー、ファイル、ソーシャル コラボレーション ツールが効果的に組み込まれています。ユーザーは個人所有のデバイスと会社が支給するデバイスのどちらを使用するかを自分で決めることができる一方、IT 部門は、統合エンドポイント管理テクノロジーが提供するデバイスのコンプライアンス情報を踏まえたリスクベースの条件に基づいたアクセスポリシーを詳細に設定して適用できます。Workspace ONE は、従来型のデバイス登録と、ラップトップおよびモバイルデバイスの構成を自動化し、アプリケーションのライフサイクルをリアルタイムで管理でき、従来のクライアント / サーバ型エンタープライズアプリケーションと、モバイル / クラウド時代のアプリケーションのどちらにも対応します。インテリジェンスペースの Workspace ONE プラットフォームは、ワークスペースのデータの集約と関連付けを独自の手法で組み合わせることで、包括的なインサイトを提供し、自動化を実現しています。これにより、ユーザーの使用環境を犠牲にすることなく、複雑な環境とセキュリティの管理が可能になります。

主な機能

コンシューマー製品のような使いやすさで、クラウド、Web、モバイル、Windows、Mac の各アプリケーションにアクセス可能です。新しいアプリケーションの追加や新しいユーザーへの対応が、これまでにないほど容易になります。ユーザーは、VMware Workspace ONE Intelligent Hub アプリケーションで一度認証されると、パーソナライズされたエンタープライズ アプリケーション カタログに即座にアクセスし、モバイル、Windows、Mac のほぼすべてのアプリケーションを利用できるようになります。また、シングル サインオン (SSO) 機能と多要素認証をサポートしているため、アプリケーションとアクセスを容易に管理できます。

機能	説明
最新のモバイル クラウド アプリケーションから従来のエンタープライズ アプリケーションまで、あらゆるアプリケーションを提供	<p>あらゆるデバイス上で適切なアプリケーションにアクセスする際にシンプルなシングル サインオン (SSO) を提供するエンタープライズ アプリケーション カタログには、次のようなアプリケーションをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> セキュアなブラウザとシームレスな VPN トンネルを利用する社内の Web アプリケーション SAML または OpenID Connect ベースの SSO に対応した SaaS アプリケーション パブリック アプリケーション ストアから購入したネイティブのパブリック モバイル アプリケーション 最新の Windows アプリケーションと macOS アプリケーション 従来の Windows アプリケーション (MSI パッケージで提供されるもの、VMware App Volumes™ からリアルタイムで提供されるもの、オンプレミスのデータセンターまたはパブリッククラウドから提供される公開アプリケーションを含む) VMware Horizon Cloud Service™ を使用してデータセンターまたはクラウド プロバイダーにホストすることで、HTML5 プロキシの内側にある、機密性の高い記録用のシステム アプリケーションを保護 クラウドまたはオンプレミスのデータセンター上で稼働している完全なマネージド仮想デスクトップを提供
新規ユーザーへの対応を変革する統合アプリケーション カタログ	iOS または Android デバイスに Workspace ONE Intelligent Hub アプリケーションをダウンロードするだけで、セルフサービスの完全なエンタープライズ アプリケーション カタログをユーザーに提供できます。このカタログは、IT 部門で容易にカスタマイズおよびブランディングすることが可能です。また、Workspace ONE Intelligent Hub アプリケーションは、インストール可能なネイティブ アプリケーションをユーザーに提供します。
非常に複雑なオンプレミスの Active Directory トポロジーとも連携するシングル サインオン	Workspace ONE は、Active Directory、LDAP ディレクトリ、内部ディレクトリ、またはサードパーティの IdP と連携するため、すべてのユーザーが企業内のあらゆるアプリケーションに容易にアクセスできます。
デバイスの信頼性を利用したパスワード不要のアクセスと PIN/ 生体認証のタイムアウト設定	ユーザーが PIN 認証サービスまたは生体認証サービスを利用して、認証と登録が済んでいるデバイスのロックを解除することで、多数のアプリケーションのセキュリティを容易に確保できます。一度ロックを解除すると、認証が有効な間はアプリケーションをタッチするだけで利用できます。Workspace ONE は ID 管理と統合エンドポイント管理を組み合わせることで、デスクトップ、Web、モバイルの環境全体で、業界をリードするシームレスなユーザー環境を実現します。

機能	説明
認証ブローカーによる 新規と既存のサード パーティ認証方式の活用	Workspace ONE では、RADIUS、Symantec、RSA SecurID、Imprivata Touch and Go などのサードパーティの認証サービスをサポートする認証ブローカーを利用できます。

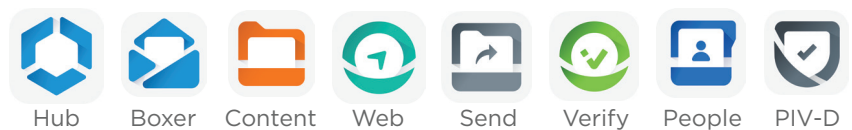
個人または企業が所有する任意のデバイスを選択可能

現在導入しているアーキテクチャは、将来リリースされるであろう全く新しいデバイスにも対応する必要があります。ウェアラブル デバイスから 3D グラフィック ワークステーションまで、ユーザーの生産性を維持するという事は、時間と場所を問わずアプリケーションを利用可能にする必要があるということです。これらのデバイスの一部は、企業が所有し、IT 部門がライフサイクル全体にわたって構成および管理する必要がありますが、今後多くのデバイスはユーザー個人が所有するものになっていくでしょう。アダプティブ マネジメントを採用する VMware Workspace ONE では、ユーザーがそれぞれのワークスタイルに合わせて、利便性、アクセス、セキュリティ、管理のレベルを選択でき、IT 部門がデバイスに関わることなく、BYOD プログラムをスムーズに導入することが可能です。

機能	説明
プライバシーを特に重視するユーザーにも広く受け入れられるアダプティブ マネジメント	Workspace ONE Intelligent Hub の提供するアダプティブ マネジメントでは、ユーザーがアクセス レベルや付随する管理方法を選択できるため、BYOD プログラムへのユーザーの参加が促進されます。
新しいデバイスのプロビジョニングでは、オペレーティング システムの管理インターフェイスを活用し、ラップトップ、スマートフォン、タブレットをユーザー自身で設定して即座に業務で使用可能	VMware Workspace ONE ベースの統合エンドポイント管理によって、新しいデバイスのセルフサービス プロビジョニングが可能です。Apple iOS/OS X、Microsoft Windows 10、Google Android、業務用特殊デバイス向けの多様な専用プラットフォームによって提供されるエンタープライズ モバイル管理 API を活用することで、アプリケーションとデバイスのプロビジョニング、構成、保護を実現します。 これにより、設定とアプリケーションは IT 部門が管理しつつ、オペレーティング システム ベンダーが提供するパッチを直接デバイスに反映できるため、セキュリティ上の脆弱性に迅速に対応することが可能になります。

セキュアな生産性向上アプリケーション：カタログ、メール、カレンダー、連絡先、文書など

Workspace ONE には、カタログ、Eメール、カレンダー、連絡先、コンテンツ、認証アクセスなどのセキュアな生産性向上アプリケーションが含まれています。ビジネスユーザー向けに設計された Workspace ONE アプリケーションには、作業時間を短縮するさまざまな機能や、企業の機密データを保護する業界最高レベルのエンタープライズクラスのセキュリティ機能が組み込まれています。ユーザーは場所を問わずに、アプリケーション、ツール、コンテンツにセキュアかつスムーズにアクセスできます。



機能	説明
強化されたカタログと漸進的な価値の提供による従業員の業務効率化	<p>VMware Workspace ONE Intelligent Hub は、ユーザーに対して、統合されたデバイスの登録、カタログ、そして優れた操作性を提供する People、Notifications、Home などのオプションへのアクセスを実現する単一の「ハブ」です。Workspace ONE プラットフォームの主要な機能を利用することで、セキュアで一貫性のある、クロスプラットフォームのユーザー環境が実現します。</p> <p>Hub Services</p> <ul style="list-style-type: none"> • Notifications: IT 部門が管理するプッシュ通知およびアプリケーション内通知、カスタム通知 • People: 従業員を素早く検索できるディレクトリによる組織のサイロ化の解消。名前、Eメール、電話番号、検索機能付きの組織図を参照可能 • Home: イン트라ネットや企業ポータルを組み込むことによる、企業のリソースへのアクセス
コンシューマー製品のようなシンプルさとエンタープライズレベルのセキュリティを兼ね備えた Eメールアプリケーションにより、外出先でも高い生産性を実現	<p>VMware Workspace ONE Boxer は、外出先で作業するビジネスユーザー向けの多様な機能を備え、Eメール、カレンダー、連絡先を直感的に操作できる、オールインワン型のアプリケーションです。業界最高レベルのエンタープライズクラスのセキュリティ機能が備わっており、Exchange、Outlook、G Suite、Yahoo、Hotmail、iCloud、Office 365、IMAP、POP3 のメールアカウントを使用できます。Dropbox、Box、Evernote などのコンテンツサービスと連携することで、整理整頓も容易に行えます。</p>
モバイル環境でのコンテンツベースのアクションと通知	<p>Workspace ONE Mobile Flows を活用することで、モバイルメールアプリケーション内に効率的なワークフローを構築できます。Mobile Flows は、ユーザーが Boxer アプリケーション上で業務に必要なさまざまなバックエンドシステムのタスクを完了できるように、コンテンツベースのカスタムアクションや通知を Eメール内に作成するためのフレームワークを提供します。</p>
カレンダー、連絡先、Eメール機能の連携による管理の簡素化	<p>Eメール、カレンダー、連絡先を連携することで、Eメールアプリケーションからのカレンダーの確認や、従業員の検索などが可能です。</p>
Eメールの添付ファイルに対する高度なセキュリティ機能でデータ漏洩を低減	<p>AirWatch Secure Email Gateway を使用することで、Eメールと添付ファイルのセキュリティを確保できます。エンタープライズクラスの暗号化の適用、ワイプ、「プログラムから開く」操作の制御により、添付ファイルのセキュリティを確保します。</p>

機能	説明
コンテンツ管理アプリケーションにより、ビジネス部門からデバイスへのセキュアなコンテンツのプッシュと管理が可能	管理者は Workspace ONE Content アプリケーションを使用して、社内のリポジトリや外部のクラウドストレージプロバイダーから、デバイス、ユーザー、グループなどにファイルを直接配布できます。これにより、ユーザーは確実に最新の情報にアクセスできます。

条件に基づいたアクセスコントロールによるゼロトラストセキュリティとデバイスのコンプライアンスの確保

特に重要な機密情報を保護するために、ID とデバイスの管理を組み合わせることでアクセスを制御します。これは、認証の強度、ネットワーク、場所、デバイスのコンプライアンスなど、さまざまな条件に基づいて行われます。

機能	説明
アクセス管理とモビリティ管理の統合	Workspace ONE はモバイル、Web、SaaS、Windows、Mac、Chrome の各アプリケーションと仮想アプリケーションへのアクセスを、アプリケーションごとにコントロールします。認証方法、ユーザーグループ、対象のアプリケーション、ネットワーク上の位置、デバイスの状態などの認証に関わる情報を確認してアクセスの可否を自動的に判断し、企業データのセキュリティを維持します。
AirWatch 統合エンドポイント管理テクノロジーによるデバイス管理とコンプライアンス	リアルタイムで継続的にデバイスのコンプライアンスを確認することで、適切なデバイスだけがデータにアクセスできるようにします。Workspace ONE は UEM のテクノロジーを使用して、デバイスが Root 化またはジェイルブレイクに関する IT のポリシーに準拠しているかどうか、ホワイトリストやブラックリストに登録されているアプリケーションかどうか、「プログラムから開く」機能が制限されているかどうかを確認するほか、AirWatch のポリシーエンジンで適用されるポリシーなども確認します。
インテリジェンスベースのインサイトとオートメーションによる環境全体のセキュリティ対策とコンプライアンスの強化	Workspace ONE はデジタルワークスペース環境全体に関する詳細な情報を集約して自動化する機能を備えているため、企業全体のセキュリティ対策のレベルが向上します。コンプライアンスに違反しているデバイスを迅速に特定して、最新のセキュリティパッチを適用し、ユーザーの行動に基づくアクセスコントロールポリシーを自動的に適用します。
デジタルワークスペース全体の情報の統合	インテリジェンスベースの Workspace ONE は、デバイス、アプリケーション、ユーザーの各データを 1 か所に集約して相互に関連付けることで、デジタルワークスペース環境全体の状況を包括的に表示します。ユーザーは事前設定済みのダッシュボードを使用して、重要なデータを常に把握できます。このダッシュボードは、ユーザー独自のニーズに合わせてカスタマイズすることができ、環境のセキュリティリスク、アプリケーションの展開、デバイスの管理、アプリケーションの使用状況、パッチの展開状況の変化を表示します。
共通のセキュリティフレームワークをベースとする包括的で予測型のセキュリティ	最新の脅威から保護し、それらの脅威を検出、修正する機能を提供する Workspace ONE Trust Network は、パートナーエコシステムによって提供される豊富なソリューションと組み合わせることで、インテリジェンスベースの Workspace ONE プラットフォーム内蔵のセキュリティ機能を高め、デジタルワークスペース全体のリスクを継続的に監視し、迅速にリスクを低減します。セキュリティ機能には、情報漏洩防止対策 (DLP) ポリシー、暗号化、マルウェアや APT 攻撃の防止、適用型の監視機能による脅威の検出、強力なポリシーと意思決定エンジンによる自動修正などがあります。

機能	説明
インテリジェントなネットワークと VMware NSX® との連携	追加機能として VMware NSX を VMware Workspace ONE Tunnel と一緒に使用することで、アプリケーションからデータセンター内の特定のワークロードへのトラフィックをさらに分離します。これにより、企業に大きな脅威を与える可能性があるマルウェアやウイルスの攻撃要因が大幅に低減します。

リアルタイムでのアプリケーションの提供と自動化

Workspace ONE は、Windows の新しい機能を最大限に活用し、業界をリードする UEM テクノロジーを利用することで、デスクトップ管理者がアプリケーションの提供とアップデートを即座に自動化できるようにします。高い実績を誇る Horizon の仮想化テクノロジーと組み合わせ、アプリケーション提供プロセスを自動化することでセキュリティとコンプライアンスを強化することも可能です。

また、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) 対応の共存管理機能を備えており、Windows 10 の最新の管理に容易に移行できます。

機能	説明
リモートの構成管理により、ユーザーは新しいデバイスをどこからでもプロビジョニング可能	Workspace ONE UEM による構成により、ラップトップのイメージ作成が不要になり、ユーザーがすぐに使用できるシームレスな環境を提供できます。動的なスマートグループに基づいて構成を管理でき、デバイスの情報とユーザー属性を考慮し、変更に応じて自動でアップデートが行われます。Wi-Fi や VPN などの企業リソースにエンドユーザーを自動的に接続し、証明書による認証や各アプリケーションの VPN に関する詳細な設定により、バックエンドシステムへのセキュアな接続を確保できます。
Windows ソフトウェアの提供でソフトウェアのライフサイクル管理を自動化	Workspace ONE が提供するソフトウェアの配布機能により、IT 部門はソフトウェアパッケージの自動インストール、アップデート、削除が可能になるとともに、スクリプト作成機能とファイル管理ツールも提供できます。ソフトウェア、アプリケーション、ファイル、スクリプト、コマンドのラップトップ上へのインストールを自動化したワークフローを作成することもできます。また、このインストールは、登録時または必要に応じて設定できます。さらに、ネットワークの状態や指定したスケジュールなどの条件に基づいてパッケージをインストールするよう設定することもできます。ソフトウェアアップデートを自動で展開し、アップデートの発生時にユーザーに通知することも可能です。
AirLift により Windows 10 の最新の管理に迅速かつ容易に移行	Windows 10 デバイスの共存管理機能を備えた Workspace ONE AirLift には、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) へのサーバ側コネクタがあり、これを使用して最新の管理に容易に移行できます。Workspace ONE AirLift を使用することで、導入、パッチ適用、ソフトウェアの配布、リモートユーザーのサポートなどの工数の多い PC ライフサイクル管理業務を、費用対効果とセキュリティに優れたクラウドベースの最新の管理モデルに移行することが可能です。AirLift では SCCM から最新の管理にダウンタイムなしでシームレスに移行できるため、Windows PC の総所有コスト (TCO) を短期間で削減できるほか、Windows 10 への移行を容易にする共存管理機能で、Windows 10 の最新の管理に移行する際のあらゆるニーズに対応します。

詳細情報

VMware Workspace ONE の詳細情報は、
www.vmware.com/jp/products/workspace-one
を参照してください。

VMware Workspace ONE またはその他の
VMware のビジネス モビリティ ソリューション
の購入については、認定リセラーにお問い合わせ
ください。

Web サイト

<http://www.vmware.com/jp/products>
認定リセラーは Web サイトで検索いただけます。
製品の仕様およびシステム要件の詳細については、
製品のオンライン ドキュメントを参照してください。

機能	説明
Horizon の仮想アプリケーションとデスクトップによってセキュアなホスト型デスクトップとアプリケーションを提供可能	Horizon が提供するセキュアなホスト型仮想アプリケーションとデスクトップにより、ユーザーは企業データに影響を与えることなく、機密性の高い情報にアクセスできます。ユーザーは、場所や使用しているデバイスの種類を問わずに仮想アプリケーションやデスクトップにアクセスできるため、どこでも効率的に作業できます。
アプリケーションの分析とオートメーション	Workspace ONE を使用してアプリケーションのパフォーマンスと導入状況、ユーザーの振る舞いを監視できるため、アプリケーションに関連する問題の迅速な解決、エスカレーションの削減、ユーザーの使用環境の向上を図ることができます。また、アプリケーションのパフォーマンスがユーザーのアプリケーションの利用動向にどのような影響を与えているかを容易に分析して定量化し、高い頻度で使用されているアプリケーションを迅速に特定してアプリケーション導入の ROI を定量化できます。 インテリジェンススペースの Workspace ONE は自動化機能を備えており、多数のパラメーターに基づいて処理を実行するルールを作成することで、デジタルワークスペース全体を効率的に管理できます。アプリケーションの導入、OS のパッチ適用、ソフトウェアのアップデートを容易に自動化し、ルールを作成することで、アプリケーションのパフォーマンスが期待より低い場合は安定した状態に迅速に戻すことが可能です。
企業が管理するデバイスの存在に関係なく、1つの画面で確認できる資産追跡機能	管理者は、Workspace ONE を使用することで、企業ネットワークに接続されたすべてのデバイスをリモートで監視、管理できます。AirWatch はマルチテナントに対応しているため、地域やビジネス部門などのカテゴリに関係なく、すべてのデバイスを単一のコンソールで管理でき、ロールベースのアクセス コントロールの定義、委任、管理をすることができます。
リモート アシスタント機能によりユーザーのサポートを簡素化	Workspace ONE Remote Assistance は、リモート アシスタンス機能とトラブルシューティングのサポートをエンドユーザーに提供します。デバイスに関する情報を収集するには、デバイス クエリを実行して、最新のプロファイル リスト、デバイスの情報、インストールされているアプリケーション、証明書を集めます。トラブルシューティングをサポートする場合は、ファイル システムのログと構成ファイルにリモートでアクセスし、問題を診断します。IT 管理者は、リモート ビュー コマンドを使用して、ユーザーにデバイスの画面共有をリクエストすることも可能です。